



## 妊娠中のサイトメガロウイルス感染予防について

神戸大学医学部附属病院産科婦人科 2012/09/24

### サイトメガロウイルスとは

サイトメガロウイルス(CMV)による感染症は、世界中で非常によくみられる感染症であり、どの年齢の人にも感染する可能性があります。

いったん、サイトメガロウイルスが体内に入れば、ウイルスは一生体内にとどまります。そのため、血液で抗体の検査をすると、成人の60～90%は過去にCMV感染症にかかったことがあるといわれます。サイトメガロウイルスは、尿、唾液、乳汁、血液、涙、精液、膣分泌物といった、種々の体液中に存在します。健康な人がサイトメガロウイルスに感染した場合、ほとんど症状がないことが多いのですが、サイトメガロウイルスは妊婦から胎児へ移行することが知られています。

母体を通して胎児にサイトメガロウイルスが感染した場合、児は先天性サイトメガロウイルス感染症となりますが、大部分の児では無症状で出生します。一部の児には出生時から、また無症状で出生しても遅れて、難聴、視力障害、精神発達遅延、肺、肝臓、脾臓の問題、発育障害などの健康問題が発生することがあります。

胎児感染以外に、分娩時、授乳、輸血、感染した他の子供との接触などによって、サイトメガロウイルスに感染することがありますが、生後に感染した幼児や子供にはほとんど症状は無く健康問題は発生しません。



### サイトメガロウイルス感染時の症状

健康な人がサイトメガロウイルスに感染した場合、ほとんど症状がないことが多く、感染したことに気付かないことさえあります。中には少し具合が悪くなる人もいます。

サイトメガロウイルス感染時の症状としては、発熱、のどの痛み、全身倦怠感、リンパ節の腫れなどがあります。これらは他の病気の症状とよく似ているので、サイトメガロウイルスによる感染と気付かないこともあります。時に発熱を伴うサイトメガロウイルス単核症やサイトメガロウイルス性急性肝炎を起こす場合もあります。

### サイトメガロウイルスの感染経路

- 感染者との密接な接触(キス、性交、唾液や尿がついた手で目、鼻、口を触った場合など)
  - 感染者の母乳
  - 母から胎児への感染
  - 輸血や臓器移植

妊娠中にサイトメガロウイルスに感染する原因で最も多いのは、小さなお子さんの唾液や尿に触れることによるものです。

### サイトメガロウイルスの胎児感染 (図1)

日本では、母となり得る年齢の女性の中の約30%はサイトメガロウイルス感染にかかった既往がない(未感染)といわれています。この未感染妊婦のうち、1～4%が、妊娠中に初めてサイトメガロウイルスに感染します(妊娠中の初感染)。しかし、大部分では症状がでません。妊娠中の初感染では、33～40%の割合でサイトメガロウイルスが胎児に感染します(先天性サイトメガロウイルス感染症)。妊娠前にサイトメガロウイルスに初感染した女性でも、ウイルスは胎児に移行することがありますが、その頻度は低いです。

先天性サイトメガロウイルス感染症の大部分の児は無症状ですが、出生後または遅れて健康問題が発生することがあります(難聴、視力障害、精神発達遅延、肺、肝臓、脾臓の問題、成長の問題)。難聴や視力障害は生後数か月や何年後に発生します。出生時に症状をもった児の約90%は、生後数年以内に健康問題が発生します(難聴、視力障害、精神発達遅延)。出生時に症状がなかった児の約10～15%に、後に聴力や精神面で種々の程度で問題が発生することがあります。

## 妊娠中のサイトメガロウイルスの感染予防方法

現在、サイトメガロウイルス感染を予防できるワクチンはありません。また、完全に感染のリスクを避ける方法もありません。しかし、サイトメガロウイルス感染の可能性を減少させるには、以下のような手段があります。

■ 以下の行為の後には、頻回に石けんと水で15～20秒間は手洗いをしましょう。

- ・ おむつ交換
- ・ 子どもへの給餌
- ・ 子どものハナやヨダレを拭く
- ・ 子どものおもちゃを触わる



■ 子どもと食べ物、飲み物、食器を共有しない。



■ おしゃぶりを口にしない。

■ 歯ブラシを共有しない。

■ 子どもとキスをするときには、唾液接触を避けて。

■ 玩具、カウンターや唾液・尿と触れそうな場所を清潔に保つ。

先天性サイトメガロウイルス感染症児を出産した場合、次の子供も先天性サイトメガロウイルス感染症になるのでしょうか？

先天性サイトメガロウイルス感染症の子供を持っているほとんどすべての妊婦は、すでに免疫ができていますので、新しくサイトメガロウイルスに感染することはありません。

1人以上の児が先天性サイトメガロウイルス感染症にかかったという報告がありますが、稀なことです。



図1 サイトメガロウイルス母子感染と後障害のリスク

